

農繁期

レポート

令和元年 6月号

栄ファーム

オーナー 栄運輸工業株式会社
水田面積 18.4アール
保証量 玄米828kg
形態品種 特別栽培コシヒカリ



生産者

三上惇二さん



草刈りの時期となりました。3月に導入したりモコン式の草刈り機を活用しています。機械の力は凄く、体感ですが人間の刈るスピードの約10倍は速いです。体も楽になり作業時間の短縮でき、稲へかける時間が増えました。6月になってから雨も適度に降ったことで、雨上がりに稲の葉が緑色に濃くなり、しっかりとした株に生長しました。やはり晴天と肥料だけではなく適度に降る雨も植物には良い肥料だと思います。

1. 草刈り（除草） 2. 水の管理

田植え後の田んぼの中には“ひえ”が生え、田んぼの周りには多様な雑草が生えてきます。ひえが生えたと稲に十分な栄養が行き届かず、周囲の雑草はそのままにしておくと虫が集まったり、雑草の種子が田んぼの中に入り稲の生育を邪魔します。その為、田んぼの中も周囲も除草作業が必要で一番体力を使う仕事ですが、最近は電動式やリモコン式など、徐々に機械化が進むことで薬だけに頼らない方法も取り入れることができるようになりました。

そして毎日気を遣うのは水の管理です。水には保温効果があるので、低温・強風の場合には深水させて稲を温ため、晴天・高温の場合には浅水することで稲にとってちょうどよい温度を保って成長を促しています。

6月の作業（草刈り）

<ラジコン型除草機>

ラジコン型が投入されている地域では大幅に作業が効率化しています。人手は変わらないなか、毎年管理する圃場は増えていていくので、機械化は重要です。



<エンジン付き田車>

田車は田んぼの中に入り、機械を草に絡ませて取るものですが、土をかき混ぜて作業するので田んぼに酸素が入って稲に良い影響を与えているのではないかとされています。